

避雷器本体内部素子の点検方法は動作開始電圧（素子に1mAを流れたときの電圧）を測定して判断します。

## ●端子配列と結線図

### 本体部

ピン側よりの図

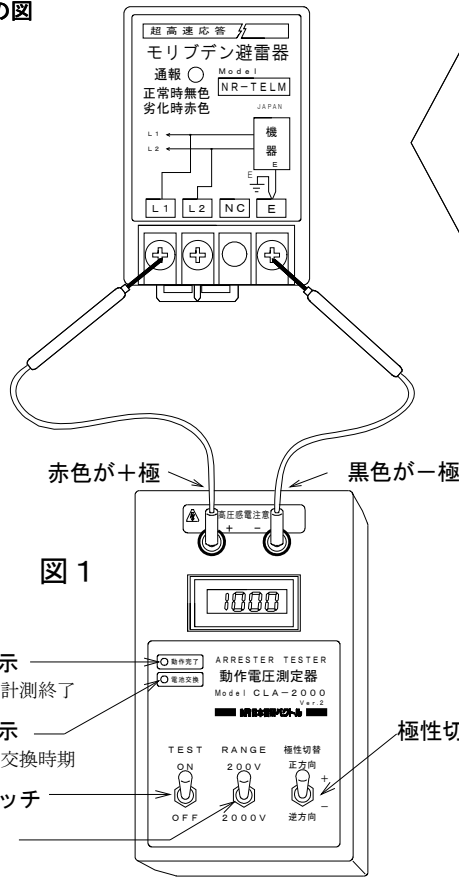


図 1

図 1

動作完了表示

緑色点灯：計測終了

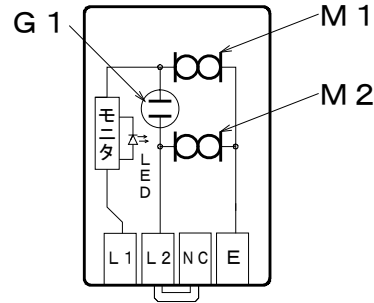
電池交換表示

赤色点灯：交換時期

テストスイッチ

レンジ切替

### 本体部



G1：ギャップ式 M1-2：モリブデン素子

### 点検前・・・ご注意

- ① 配線を外して行ってください。
- ② 感電にご注意ください。  
TESTスイッチONにしているとき、出力の電極を素手で触れないでください。
- ③ 試験回数につきまして  
2～3回程度で終了してください。  
モリブデン式のみでなく酸化亜鉛式、ギャップ式なども劣化の原因になることもあります。

### 点検後・・・新品交換待ちになった場合

- ① 劣化と判断した場合であっても信号に支障がなければ、新品交換まで付け戻してください。  
交換までの雷サージ対策となります。

### チェッカーの動作について

チェッカー CLA-2000は、1mAの電流制限つきです。1mAを超えた時点で、数値をホールドして素子への電圧印加を停止します。数値はTESTスイッチをOFFにするまで表示します。

## ●素子の良否判定方法

- ① チェッカーCLA-2000を図1のように接続します。
- ② 測定する端子間の動作電圧に合わせてRANGE（レンジ）を切り換えてください。
- ③ TESTスイッチをON側に投入してください。
- ④ 指示値が下表の範囲外の場合は、劣化（不良）と判定します。  
但し、M1、M2の短絡時は300V付近となり、自復は不可能です。交換してください。

### <NR-TELM避雷器>

各素子	測定端子	端子番号 (無極性)	印加電圧 (レンジ)	確認内容	M○短絡時
G	L1-L2間	7-8	DC2000V	DC376～564Vの範囲内であること	—
M1	L1-E間	7-3	DC2000V	DC350～850Vの範囲内であること	300V以下
M2	L2-E間	8-3	DC2000V	DC350～850Vの範囲内であること	300V以下